



チップするべきか、しないべきか、それが問題だ

アメリカを訪問する時、チップがよく分からないと思うのは日本人だけではなく、多くのアメリカ人もそう思います。なぜかという、チップを払うのは法律で定められていることではなく、アメリカでの普通のマナーのようなものだからです。そのため、チップのルールについて正式に書いてある本など存在しませんが、アメリカ人はチップの文化を暗黙のルールとして受け入れています。今月は、不思議なアメリカのチップの文化を少し説明したいと思います。

「チップ」というのは基本的に、「有料サービス」と考えて間違いではありません。日本のレストラン、ホテル、タクシー等で提供されるサービスは無料が多いので、皆さんはそれらを受けて当たり前と思っていますが、アメリカでは一般的にウエイターやウエイテレスのような従業員の基本給がかなり低いため、サービスを提供することでチップをもらい、それを自分たちの生活費にしています。そのため「それなら、彼らの給料を上げればいいじゃない?」そうすると、チップは必要ないんじゃない?」とよく聞かれます。実は、私も同感なのですが、「今更変わらないよな」という考え方の人が多いので、近いうちにこの文化が変わると思えません。

次に、チップをどんな所でいくら払えば良いのかを説明します。基本的に、サービスをしてもらうところではチップを払った方が良いでしょう。一般的に「チップ」と言えばレストランやバーを思い浮かべるかもしれませんが、ホテルのベルボーイや車を駐車してくれる従者、タクシーの運転手などにも渡します。レストランやバーのウエイターなら、代金の15%~20%をチップとして払います。現金で払うならば、それをそのままテーブルに置いて店を出ても良いのですが(直接ウエイターに渡さない)、クレジットカードを使うなら、領収書の下にある「Gratuity」(チップという意味)のところにチップしたい金額を記入します。ただし、ウエイターがいない店(マクドナルド等)では、チップは払わなくてもいいです。

チップって複雑ですね。私は日本にチップの文化が無くて良かったと思いますが、アメリカに行く時はチップを払わないと相手に失礼な人と思われるので、忘れないように気をつけてくださいね。

To Tip or Not To Tip, That is the Question

It isn't just Japanese people who are confused about tipping when they visit America. Actually, I think there are a sizable number of Americans who are themselves confused about it as well. This is probably because tipping is not required by law, but is more like an American custom. For this reason, Americans consider tipping to be a sort of unspoken rule; there does not exist an "official rule book" for tipping. So this month, I would like to explain a little bit about the culture of tipping in America.

At a basic level, it would not be wrong to think about tipping as "paying for service". In Japan, service at restaurants, hotels as well as taxi service are mostly offered free of charge, so if you have only ever experienced service in Japan, you probably take this for granted. In America however, the base salary for service industry workers like waiters and waitresses are so low that they rely on the money they earn from tips to live their lives. So, the question that is often asked is, "So why not just raise their pay? Wouldn't that eliminate the need for tips?" Honestly, I feel the same way. But there are many people who think, "Well, it's not going to change now." So I personally don't see the system changing any time soon.

Now, I'd like to tell you about when and where to tip. Basically, when you receive some sort of service, it is probably best to tip. Restaurants generally come to mind when talking about tipping, but it is also customary to tip bell boys at hotels, the valet who parks your car and other such people. At a restaurant or bar, you should tip your waiter or bar tender 15 to 20% of the bill. If you intend to tip with cash, you can just leave the money on the table and leave the restaurant (you don't have to pay the person directly). If you're tipping by card, there will be a "gratuity" section at the bottom of your receipt where you should write in the amount you would like to tip. You do not, however, have to tip at restaurants without a wait staff (e.g. McDonald's).

Tipping is pretty confusing isn't it? I'm actually pretty happy that there is no tipping culture in Japan. In America though, not tipping is considered very rude, so if you ever find yourself in America, be sure to remember to tip your waiter!



ながしま めい
長島 芽以ちゃん(0歳) 大平在



みやくに ひなと
宮國 陽翔ちゃん(0歳) 屋富祖在



さくらい たいが
桜井 太雅ちゃん(0歳) 内間在

「てだっ子STUDIO」写真募集

- 日頃の子どもの写真を郵送または画像データをメールで毎月月末までに送付してください。窓口へ直接提出も可。集合写真は不可。
- ※被写体の子ども(ふりがな)・年齢(0か月,1歳など)・居住地区(安波茶・伊祖など)一言コメントの記入を忘れずに!

〒901-2501 浦添市安波茶1-1-1
浦添市役所 国際交流課
☎(876) 1234(内線2613・2614)
E-mail:kokusai@city.urasoe.lg.jp

ハイサイ こちら市長室!

「誰もがあなたらしく」

今年の1月1日、私たちの浦添市では「レインボー都市つらそえ宣言」を行いました。この宣言は、すべての人の性の多様性を認め合い、差別や偏見をなくし、誰もがティーン(太陽)のように輝ける住みやすい浦添市を目指して行われたものです。国旗、県旗、市旗とレインボーフラッグが並んで掲げられた、おそらく日本で初めての掲揚式だったのではないのでしょうか。

だからと言って、何もうの多様性だけを認めることが目的ではありません。全ての人がその個性を発揮し、自由にそのらしく、それぞれの価値観が尊重されながら幸せになること、つまり、生き方や幸福の多様性をも認め合うまち、そんな浦添市でありたいと願っています。

どによる差別やいじめが、この21世紀の現在でも後を絶ちません。それだけではなく、私たちは自分と違う意見や生き方を認める広い心を失いつつあるのではないかと危惧しています。批判し合い、いがみ合い、反対し合う、その果てには傷つけ合うことしかありません。そんな寛容の心を失った争いが世界各地で発生しているように思っています。

浦添市役所前には懸垂幕を掲げ、さらに今日も国旗、県旗、市旗と並んでレインボーフラッグが青空にひらめいています。多様性の象徴として、ご覧いただきたいと願います。



浦添市長
松本哲治

文化課発信 うらそえ ありんくりん 第23回

～ いろいろなウラソエ ～

今回のテーマは「ウラソエ」です。浦添の語源は「浦々を襲う」(各地を支配する)であると論じたのは伊波普猷ですが、史料にみえる地名・人名のウラソエをいくつかご紹介しましょう。

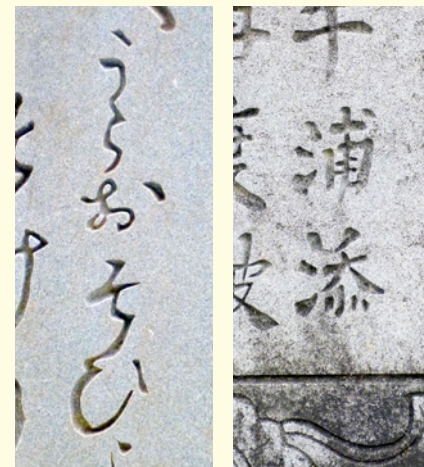
【うらおそい】【うらおそひ】:ひらがなで書かれたものには16~17世紀の歌謡集『おもろさうし』の地名や、1597年の浦添親方の墓碑(現存せず)の人名などがあります。

【浦襲】:1562年の「君誇之欄干之記」(現存せず)に「浦襲大臣」が登場しますが、彼は一般には浦添親方良憲として知られている人物の可能性ががあります。

【浦傍】:朝鮮の『海東諸国紀』(1471年)の地図に「浦傍城」とあります。日本人僧が朝鮮にもたらした地図をもとにして描かれたようで、日本語で「傍」は古くはソフ(ソウ)と読まれていたそうですから音をもとにしたあて字でしょうか。

【鄺羅端】【丘刺子】など:漢文で書かれた外交文書集『歴代宝案』の16世紀前半の文書に登場する人々たちです。これらは「ウラスイ」と読むそうですが、当時の中国語でこのように発音できる漢字をあてたものでしょう。

このように広く使われなかったものも含めいろいろな「ウラソエ」があったのです。



▲1597年建立「浦添城の前の碑」の表(左)は「うらおそひ」、裏には「浦添」

問い合わせ 文化課 内線6214・6217